

横浜とスコットランドの関係は、開国後まもない明治初期にまでさかのぼります。キーパーソンは横浜の街の礎を作った「横浜まちづくりの父」スコットランド出身技師、リチャード・ブルントン。明治政府最初のお雇い外国人となった彼の功績から、横浜とスコットランドのつながりを紐解きます。

季刊誌「横濱」2018年新春号 Vol.59「英国人技師ブルントンと日本大通り」より抜粋

文 青木祐介氏（横浜都市発展記念館 主任調査研究員）

1868（明治元）年に来日したブルントンは、そもそも日本の灯台建設のために招聘された技師でした。しかし彼の派遣を斡旋したイギリス公使パークスは、灯台のみならず開港場の整備にもブルントンを関与させる考えていたと思われ、ブルントンの雇い入れ条項には、当初から開港場の整備に関する内容が盛り込まれていました。ブルントンは横浜のまちづくりに深く関わっていくことになります。

1876年（明治9）年に日本を離れるまでのあいだ、横浜におけるブルントンの活動は、電信の敷設、外国人居留地の測量や下水道整備、吉田橋の架設など多岐にわたっています。

なかでも明治初年の居留地改造によって誕生した横浜公園と日本大通りは、現在の關内地区の骨格をつくったという意味で、ブルントンが横浜に残した最良の遺産と言えます。

ブルントンが約書（「横浜居留地改造及競馬場墓地等約書」）にもとづいて実施したのは、①新埋立居留地（現在の中華街と横浜公園のあいだの区域）の造成、②横浜公園の造成、③日本大通りの新設、④堀川の浚渫と拡幅の4項目で、1871（明治4）年の日付をもつ計画図が、国立公文書館に残されています。

現在、横浜公園には、その功績を称え、ブルントンの胸像が建てられています。ブルントンは、横浜公園、日本大通りだけでなく、橋・桟橋の建設、新橋・横浜間の鉄道意見書提出など多くの横浜の街づくりに携わりました。当時のスコットランド・英國の技術をもたらした彼の功績は現在に脈々と息づいています。



PHOTO by Hideo MORI



## お雇い外国人ブルントンなしには 横浜の街づくりは語れません

### Richard Henry Brunton - Key Person in the Development of Yokohama

The long-standing relationship between Scotland and Yokohama dates back to the beginning of Meiji era, when Japan opened its doors to the world. A key person is Mr. Richard Henry Brunton, who is sometimes referred to as “the father of Yokohama urban planning”. He was the first Foreign Government Advisor hired by the Meiji Government to assist in the modernization of Japan. Mr. Brunton was hired as an architecture technician, and his work in Yokohama marked the starting point of the Scotland-Yokohama relationship.

Here are some of his achievements:

- Yokohama-Koen (Yokohama Park)
- Nihon-Odori (Nihon Street)
- Laying telegraph lines, improving sewerage and measuring the foreign settlement, building Yoshidabashi (Yoshida Bridge).

A statue stands in Yokohama-Koen to honor his achievements. His most notable legacy in Yokohama is Yokohama-Koen and Nihon-Odori, but he was also involved with the building of bridges and piers, as well as the proposal of train projects between Yokohama and Shimbashi. His contributions to Yokohama, achieved through the use of contemporary Scottish and British engineering, can still be seen around Yokohama.